琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (17)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20570

写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫⑰

ハスモンヨトウ

幼虫

形　態：卵は、淡緑色、まんじゅう形で放射状の隆起線がある。直径0.5ミリメートル。葉裏に暗黄色の母蛾の尾毛でおおわれ、100～400粒ずつの卵塊として産まれる。

幼虫は、暗かっ色から淡緑までいろいろと変化が多い。亜背線の各節には黒色の紋がある。体長4センチメートル内外。

蛹は、赤かっ色または暗かっ色、胸背とハネには横じわが多い。体長2センチメートル。

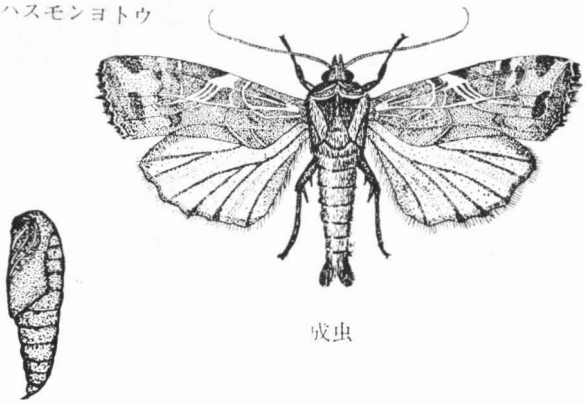
成虫は、体と前ハネはかっ色。前ハネの基部上半に細い数条の灰白色線があり、また前線の内側近くから下外側にむかって灰白色の太い斜帯がある。オスではその斜帯が太い。後ハネは白色で、外縁は暗かっ色。前ハネの長さは20ミリメートル内外。

加　害：ミカン、サトイモ、ネギ、菜類、大根、ラッカシヨウ、サツマイモ、タバコ、トマト、ナス、その他多くの植物を害する。ふ化した幼虫は葉裏に群生して葉肉を食害して表皮を残す。成長すると分散していき、昼間はかくれて夜間出て、葉のふちから食害し、全葉を食害するが老熟すると土中に入って蛹になる。

防　除：

1. 幼虫が小さいときは、BHCやDDTで防除できるが大きくなると効果がなくなる。
1. エンドリン乳剤を散布する。
1. 砒酸鉛も効果がある。

ハスモンヨトウ



成虫

蛹

エビガラスズメ

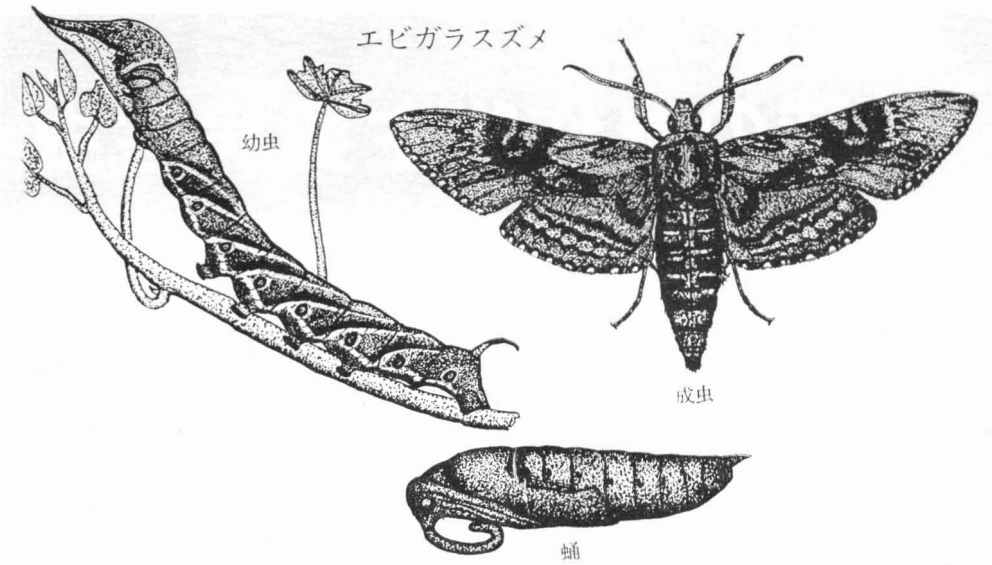
形　態：卵は、淡黄緑色で、ほとんど球形。直径2ミリメートル内外。葉に1個ずつ産まれる。

幼虫は、緑色とかっ色の2種類がある。緑色の幼虫は第4節から第12節に至る各節の側部には暗紫色と黄色の相半する斜線がある。気門には黒い輪があり、その中は赤い。体長5センチメートル内外。かっ色の幼虫は、密に黒点がある。第4節から第12節に至る各節の側部には黒かっ色の斜線がある。気門は黄色。体長5センチメートル内外。

蛹は、赤かっ色。気門座の凹部は明瞭で、尾端は長く、くさり状に突出する。体は58ミリメートル内外。

成虫は、体長47～50ミリメートル。ハネの開張100～120ミリメートル。暗灰色。腹部は背面では灰色であるが、各節ごとに白、赤、黒の3横帯がある。前ハネは所により茶かっ色をおびる。後ハネには4本の暗帯がある。

加　害：サツマイモ、アサガオ、ユウガオを加害する。



年中発生し、成虫は、昼間は人家のカベなどに静止して夕刻に、サツマイモなどの葉の裏に 1個ずつ産卵する。幼虫は葉柄又は葉裏にあって、葉のふちから食害し、葉柄だけ残す。はなはだしいときは、圃場全面一葉も残さないことがある。幼虫は老熟すると地中6〜9センチメートルのところに入って蛹になる。

防　除：

1．砒酸鉛を散布する。

サツマイモトリバ

形　態： 幼虫は、1センチメートル内外。頭は淡黄色。体は灰色をおびた緑色。毛は白色でめだつ。

蛹は、尾端で葉の主脈につき、頭の先端は、前方にやや平たい突起を出す。各節には短いトゲのような突起がある。色は、はじめ緑色で、しだいにかっ色になる。

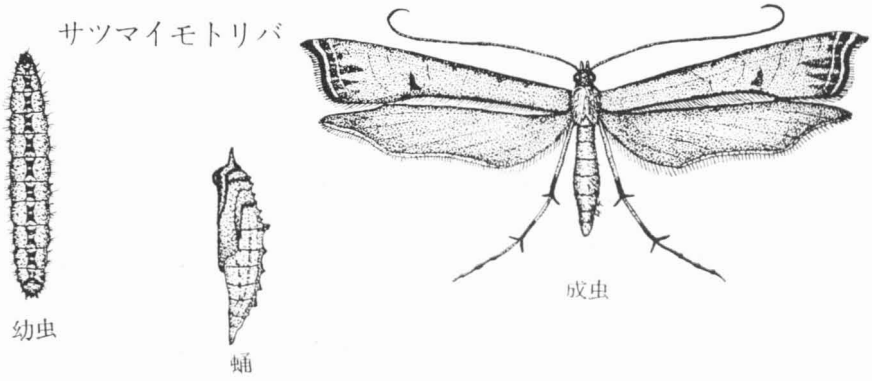
成虫は、ハネの開張13〜16ミリメートル。灰かっ色。ハネの先はとがり、外縁部は広くて暗かっ色、その中に数個の黒かっ色の小紋が連なっている。後肢は灰かっ色で各節上に黒かっ色の部分がある。

加　害： サツマイモの害虫で、1年中発生している。幼虫は、新葉の十分開かないものを好んで表面から食害して裏の表皮を残す。食こんは不規則で散在する。害をうけた葉はしおれ、茎の伸長をさまたげる。成虫は、昼間は葉の間にかくれ夕刻を過ぎ夜に入って活動する。

防　除：

1．除虫菊剤を散布する。

1．硫酸ニコチンを散布する。

1．砒酸鉛を散布する。

おわり．（田 盛 正 雄）